

2023(令和5)年度 西部地区五大学共同開講授業科目「博多学」シラバス

授業科目名	博多学
開講年度	2023
開講学期	前期
対象学部等	全学部
対象学年	1～4
必修選択	選択
単位数	1 単位（現地見学＋ 集中講義）
担当教員	【九州大学】 荒木 和憲 人文科学研究院 歴史学部門 日本史学講座 准教授 木下 寛子 人間環境学研究院 教育学部門 国際教育環境学講座 准教授 【西南学院大学】 藤永 豪 人間科学部 教授 伊東 未来 国際文化学部 国際文化学科 准教授 【中村学園大学】 松隈 美紀 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授 【福岡歯科大学】 永井 淳 地域連携センター 教授 【福岡大学】 渡辺 亮一 工学部 社会デザイン工学科 教授
履修条件	履修希望者数によっては、人数制限を行う場合がある。
授業の目的 教育目標	「博多学」を通じて、みなさんが今まさに学んでいる土地が、どのような場であるのかを学んでいきましょう。地域に関する知識（歴史、文化など）や、地域で行われていること（習慣など）を知ること、地域に対する誇りを再確認することにつなげ、更にその誇りをグローバルに生きる「国際人」の自信として欲しいと願っています。 以上のようなことから、みなさんの学習目標は大きく二つを考えています。 ひとつは「博多」の魅力を自身の言葉で伝えることができるようになること。もうひとつは、地域を見つめる際にさまざまな視点が存在することを知ることです。
授業概要	博多を博多湾や水事情および災害などの「自然」、対外交流、文化普及等の「歴史」、食文化、外来文化等の「文化」の面から考察する。
授業の進め方	現地見学（4/22(土)、5/13(土)、5/20(土)、6/3(土)のいずれか1日に必ず出席すること） 集中講義（8/17(木)、8/18(金)、8/21(月)の3日間）

【授業計画：現地見学】

4/22(土) 5/13(土) 5/20(土) 6/3(土)	福博の歴史と文化探訪 永井淳 福岡歯科大学 地域連携センター 教授 テーマ 神社・仏閣・記念館・遺跡などを現地見学し、歴史的・文化的背景を理解する。 我々が現在生活しているこの福岡・博多の地域を実地見学します。座学ではなくて、地元に着した歴史・文化を「歩いて、見て、聞いて、触れる」ことを目的にします。現地見学体験を通じて、自分を取り巻く地域や社会の理解を深めることは、これからの学びに対する姿勢を変えたり、地域社会での貢献を考える材料になったりすると思います。一緒に学んでいきましょう。 下記スケジュールから1回を選び、現地見学（土曜、10～11 時頃から約6 時間）に参加してください。 4 月 22 日「福博の歴史と文化を体験するイントロダクション」 ～中央区・城内、早良区・百道浜～ 鴻臚館跡遺跡展示館、福岡市博物館 5 月 13 日「博多伝統行事・祭礼と食文化を体験する」 ～東区・箱崎、東区・社領～ 筥崎宮、博多の食と文化の博物館「ハクハク」 5 月 20 日「福博における外来文化の受容・洗練および伝承を体験する」 ～博多区・上川端、冷泉、早良区・西新～ 博多町家ふるさと館、西南大博物館、元寇防塁跡 6 月 3 日「福岡・博多の伝統祭礼と工芸を体験する」（※シラバス変更予定） ～早良区・高取および百道浜～ 紅葉八幡宮、はかた伝統工芸館
---	---

【授業計画：集中講義】

8/17(木)、8/18(金)、8/21(月)の3日間

8月17日(木)

10：40～12：10 (90分)	地形図にみる博多・福岡の地域変容 藤永 豪 西南学院大学 人間科学部 教授 現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、土地利用や自然環境の変容などについて視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。
13：00～14：30 (90分)	11世紀の日宋貿易—鴻臚館から博多へ— 荒木 和憲 九州大学 人文科学研究院 歴史学部門 日本史学講座・准教授 説話集の『今昔物語集』(12世紀初)と『宇治拾遺物語』(13世紀初)には、管崎宮の大夫(神主)である秦則重とその祖父秦貞重が登場する。いずれも11世紀前半～半ばごろに実在した人物である。説話によると、秦貞重は博多に来航してきた「唐人」(宋の商人)と財物の貸借・取引を行っていたという。本講義では、説話と史実との接点を探りつつ、11世紀の博多湾岸地域(鴻臚館・博多)で営まれた日宋貿易の様相を考えたい。
14：40～16：10 (90分)	博多の道を歩く：他者と出会い、暮らす場所 木下 寛子 九州大学 人間環境学研究院 教育学部門 国際教育環境学講座・准教授 歴史も深く、見どころも多く、楽しめるごはんとたくさんある博多の街ですが、この講義では今の博多でのたあいのない暮らしのことを考える試みをしてみたいと思います。博多の道を歩く時(車や自転車、バスや地下鉄で走り抜けるのでもなく)、少し注意深くなって目を凝らし、耳をそばだてると、この場所で暮らす私たちのこと、私たちが暮らす場所のことがよく見えてくるようになるのです。

8月18日(金)

10：40～12：10 (90分)	戦争・ジェンダー・負の遺産—引き揚げ港・博多から考える 伊東 未来 西南学院大学国際文化学部国際文化学科 准教授 博多港はかつて、第二次世界大戦終戦時に、アジア諸国を中心とした海外に残っていた日本人が帰国する「引き揚げ」の、最大の玄関口のひとつであった。 この講義では、引き揚げ港・博多やそれに関連する二日市保養所などの当時の施設の歴史を学ぶことを通じて、戦争とジェンダー、負の遺産の継承の課題などについて履修者と共に考えたい。
----------------------	---

13：00～14：30 (90分)	博多の郷土料理と食文化① <u>松隈 美紀 中村学園大学 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授</u> 本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90分） 郷土料理を生み出す要素 1．気候・風土 2．歴史 3．宗教 4．教育
14：40～16：10 (90分)	博多の郷土料理と食文化② <u>松隈 美紀 中村学園大学 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授</u> 本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞②（90分） ・博多の正月料理 ・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理 ・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ ・郷土料理とは

8月21日(月)

10:40～12:10 (90分)	①博多の水資源と水循環 渡辺 亮一 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授 1 限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し、福岡市の弱点である飲み水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを見つめなおし、流域治水を達成することで、水資源と洪水の両方を一挙に解決する方策を講義の中で考えていく。
13:00～14:30 (90分)	②博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」 渡辺 亮一 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授 2 限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話します。
成績評価の方法等	①各大学の担当教員は、評価を受けるにあたって必要な出席回数を満たしている学生について、実地見学および授業中に課した振り返りシート等を総合的に勘案し成績評価を行い、大学は単位を認定する。 ②グループディスカッションで提出されるレポート、また、後日提出される最終課題を加算材料とするかどうかについては、各大学の担当教員の判断に委ねる。